

実施要領 様式11(第13条関係)
 【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成21年8月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0272400680
法人名	有限会社 テル・サウスウインド
事業所名	グループホーム テル・サウスウインド
所在地	青森県八戸市鮫町字冷水平1-6 (電話)0178-38-2670
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年3月25日

【情報提供票より】(平成21年1月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年1月16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 9人, 非常勤 4人, 常勤換算	8.9人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 18,000 円他
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

(4)利用者の概要(平成21年1月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.5 歳	最低	69 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人謙昌会美保野病院 医療法人きむらクリニック 医療法人きどクリニック
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームには趣のある格調高い日本庭園と家屋となっており、落ち着いた雰囲気となっている。
 全職員が地域密着型サービスの役割を理解し、「入所者とご家族が安心し、信頼していただける介護と看護を公平・奉仕の心です。」という、独自の理念を掲げ、地域密着型サービスの役割を反映させている。
 利用者や家族が安心、納得した上でサービスを利用出来るよう、利用者の視点に立った支援を行っている。また、個々の事情に沿った相談に応じながら、面接やホーム見学を行い、無理の無い個別支援に繋がるよう調整している。
 利用者や家族等の希望を尊重した医療機関を受診出来るよう支援しており、これまでの医療状況を把握し全職員に周知している。かかりつけ医の月2回の往診のほか、その都度現状に応じた適切な医療が受けられており、いつでも相談等を行うことが出来る。また、家族、ホーム、医療機関と情報交換を密に行い共有に努めている。
 利用者の生活歴等をアセスメントにより把握しており、得意分野で個々に力を発揮できるよう、食事に関する一連の動作や洗濯物の手伝い、趣味を生かした書き物、レクリエーションなど、経験や力量に沿って発揮出来る場面を設けている。

【特に改善が求められる点】

職員が個々の力量に応じて段階的に研修を受講できるよう、年間研修計画を作成することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果をもとに、会議等で改善に向けて話し合い、サービスの向上に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価のねらいや活用方法を職員会議を通じて全職員に周知し、自己評価を作成する際は、全職員がそれぞれ取り組むことで、評価のねらいや活用方法等を理解している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、家族・地域住民・地域消防団の方々に参加を頂き、積極的な意見交換が行われ、出された意見をもとに、新たな取り組みに繋げようと取り組んでいる。</p> <p>また、自己評価や外部評価結果を報告し、改善点についてのホームの取り組みを掲示し、理解と協力を得ている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族の面会時や、3～4ヶ月毎に発行している手紙、年1回の広報誌により、利用者の暮らしぶりや健康状態等を報告している。また、預かり金管理状況についても、面会時等に報告し、確認を得ている。</p> <p>運営推進会議の参加やホームでの行事での交流を通し、家族等が意見等を出しやすい雰囲気作りを行っている。また、内部・外部苦情受付窓口を重要事項説明書に明示し、出された意見は全職員で話し合い、日々のケアに活かすよう取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日頃から近隣の人たちに気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけを行っている。また、町内会や運営推進会議を通して地域の方や小中学生との交流に積極的に関わっている。</p> <p>さらに、中・高校生の職場体験実習生を受け入れたり、今後キャラバンメイトとして地域の中で認知症の理解・普及活動の役割を担っていく姿勢を示しており、事業所の持つ専門性や実践経験を地域に還元する取り組みを行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日頃から近隣の人たちに気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけを行っている。また、町内会や運営推進会議を通して地域の方や小中学生との交流に積極的に関わっている。</p> <p>さらに、中・高校生の職場体験実習生を受け入れたり、今後キャラバンメイトとして地域の中で認知症の理解・普及活動の役割を担っていく姿勢を示しており、事業所の持つ専門性や実践経験を地域に還元する取り組みを行っている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>全職員が地域密着型サービスの役割を理解し、「入所者とご家族が安心して、信頼していただける介護と看護を公平・奉仕の心です。」という理念を掲げ、地域密着型サービスの役割を反映させている。</p> <p>管理者はミーティング等で理念を周知し、全職員の共通理解を図り、理念に沿った日々のケアサービスを目指し取り組んでいる。</p> <p>運営者は、同業者と連携することが、サービスの向上に繋がることを認識しており、地域のグループホーム協会に加入し、同業者との交流を積極的に行っている。また、交流や連携を通じて日々のケアや職員の意識改革にも大きく影響を与えており、サービスの向上に活かしている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者や家族が安心、納得した上でサービスを利用出来るよう、利用者の視点に立った支援を行っている。また、個々の事情に沿った相談に応じながら、面接やホーム見学を行い、無理の無い個別支援に繋がるよう調整している。</p> <p>アセスメントシートや日頃の支援の中から状況把握に努め、喜怒哀楽を共感出来るようにしている。また、利用者から学ぶことも多く、本人の力を発揮できるよう環境整備を行い、共に支え合う、学び合う関係を構築している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画作成時は利用者がその人らしく生活できるよう、可能な限り利用者のニーズを取り入れている。また、計画作成者や担当職員を中心にミーティングで話し合い、全職員の意見を反映させているほか、家族等よりの意見も取り入れ、個別具体的な計画を作成している。</p> <p>利用者の状況に合わせ3～4ヶ月毎に見直しを行っており、利用者の状態変化時等には随時行っている。見直しを行う際は、職員だけでなく、利用者や家族の意見も十分に取り入れて再アセスメントを行っており、現状に即した新たな計画となっている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の生活歴等をアセスメントにより把握しており、得意分野で個々に力を発揮できるよう、食事に関する一連の動作や洗濯物の手伝い、趣味を生かした書き物、レクリエーションなど、経験や力量に沿って発揮出来る場面を設けている。</p> <p>共有空間は落ち着いた雰囲気の調度品が多く、心地よく過ごせる空間となっている。また、職員のたてる物音やテレビの音量、室内の明るさも適切で、花や手作りのカレンダーを飾り季節を感じる事ができるよう工夫されている。</p>

評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員が地域密着型サービスの役割を理解し、「入所者ご家族が安心し、信頼していただける介護と看護を公平・奉仕の心です。」という、独自の理念を掲げ、地域密着型サービスの役割を反映させている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はミーティング等で理念を周知し、全職員の共通理解を図り、理念に沿った日々のケアサービスを目指し取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	日頃から近隣の人たちに気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけを行っている。また、町内会や運営推進会議を通して地域の方や小中学生との交流に積極的に関わっている。さらに、中・高校生の職場体験実習生を受け入れたり、今後キャラバンメイトとして地域の中で認知症の理解・普及活動の役割を担っていく姿勢を示しており、事業所の持つ専門性や実践経験を地域に還元する取り組みを行っている。外部の方がホームを訪れる際は利用者のプライバシーに十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価のねらいや活用方法を職員会議を通じて全職員に周知し、自己評価を作成する際は、全職員がそれぞれ取り組むことで、評価のねらいや活用方法を理解している。また、前回の評価結果をもとに、会議等で改善に向けて話し合い、サービスの向上に努めている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、家族・地域住民・地域消防団の方々に参加を頂き、積極的な意見交換が行われ、出された意見をもとに、新たな取り組みに繋げようと取り組んでいる。また、自己評価や外部評価結果を報告し、改善点についてのホームの取り組みを掲示し、理解と協力を得ている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課職員に広報誌やパンフレットを配布しているほか、利用者についての具体的な相談や、行政に関する疑問や質問を積極的に投げかける機会が多く、行政と連携を図りサービスの向上に努めている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は外部・内部研修により、地域福祉権利擁護事業等に関する理解を深めている。また、利用者が制度を適切に活用できるよう、必要に応じた情報提供や活用支援に努めている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員はミーティング等で意見交換や事例検討を行い、共通の理解と認識に努めており、管理者は職員の日々のケアを見守り、虐待防止に取り組んでいる。また、虐待を発見した場合の職員同士の取り決めがあり、全職員が理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等に沿って、ホームの方針や理念、サービス内容について説明し、疑問や意見を引き出すよう働きかけている。また、退去時等についても十分に説明を行い、同意を得ているほか、施設や病院等との連携を密にし、情報提供を行うなど、個々に応じた支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や、3～4ヶ月毎に発行している手紙、年1回の広報誌により、利用者の暮らしぶりや健康状態等を報告しているほか、必要に応じてその都度電話連絡を行っている。また、預かり金管理状況についても、面会時等に報告し、確認を得ている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の参加やホームでの行事での交流を通し、家族等が意見等を出しやすい雰囲気作りを行っている。また、内部・外部苦情受付窓口を重要事項説明書に明示し、ホーム内に掲示することで周知に努め、出された意見は全職員で話し合い、日々のケアに活かすよう取り組んでいる。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者、職員は異動による利用者への不安や混乱を理解しており、最小限となるよう十分な説明を行うなどの配慮に努めている。また、新しい職員の採用時や異動を行う際は詳細な引継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外に業務に対しての助言を行う人材を確保しているほか、運営者は、職員個々の資質に合った育成を目指し、勤務体制に配慮しながら研修の受講を促している。研修後は報告書を作成し、ミーティング等で全職員で共有を図っているが、年間研修計画を作成するまでには至っていない。	○	職員が個々の力量に応じて段階的に研修を受講できるよう、年間研修計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者と連携することが、サービスの向上に繋がることを認識しており、地域のグループホーム協会に加入し、同業者との交流を積極的に行っている。また、交流や連携を通じて日々のケアや職員の意識改革にも大きく影響を与えており、サービスの向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族が安心、納得した上でサービスを利用出来るよう、利用者の視点に立った支援を行っている。また、個々の事情に沿った相談に応じながら、面接やホーム見学を行い、無理の無い個別支援に繋がるよう調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	アセスメントシートや日頃の支援の中から状況把握に努め、喜怒哀楽を共感出来るようにしている。また、利用者から学ぶことも多く、本人の力を発揮できるよう環境整備を行い、共に支え合う、学び合う関係を構築している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を取り入れて利用者とのコミュニケーションやアセスメント、カンファレンスを通して意向の把握に努めている。また、十分に意向を把握できない場合は、必要に応じて家族等からの情報収集を行うほか、全職員で意見交換を行い把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時は利用者がその人らしく生活できるよう、可能な限り利用者のニーズを取り入れている。また、計画作成者や担当職員を中心にミーティングで話し合い、全職員の意見を反映させているほか、家族等の意見も取り入れ、個別具体的な計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しているほか、利用者の状況に合わせ3～4ヶ月毎に見直しを行っている。また、利用者の状態変化時等には随時見直ししている。見直しを行う際は、職員だけでなく、利用者や家族の意見も十分に取り入れて再アセスメントを行っており、現状に即した新たな計画となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出希望を取り入れ、温泉日帰りドライブ等の支援を行っている。また、主治医の定期的な往診のほか、突発的な受診時の対応を支援しているほか、地域の中・高校生の職場体験等も受け入れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望を尊重した医療機関を受診出来るよう支援しており、これまでの医療状況を把握し全職員に周知している。かかりつけ医の月2回の往診のほか、その都度現状に応じた適切な医療が受けられており、いつでも相談等を行うことが出来る。また、家族、ホーム、医療機関と情報交換を密に行い情報の共有に努めている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の対応についてホームとしての方針を明確にしており、主治医や家族、ホームの三者での話し合いを設け、方向性の意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はさりげない対応を心掛け、利用者を尊重し、適切な声掛けを行っているほか、内部研修や会議等において、職員の意識の向上を図っている。また、利用者の介助時における羞恥心やプライバシーに配慮しており、職員は個人情報保護法を概ね理解し、利用者の個人情報等は適切に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、利用者のペースを大切にした支援をしており、出来る限り意向を取り入れるよう努めている。また、体調のチェックを十分に行い、その日の体調や精神状況に合った支援を柔軟に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みを取り入れて作成されているほか、利用者はその日の意思や体調に合わせて調理や後片付けを職員と一緒にしている。職員は利用者と同じ席に着き、見守りながら楽しい食事となるよう努めている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴習慣や好みを把握し、入浴日や時間帯等を可能な限り利用者の意向を取り入れている。また、入浴に対する羞恥心や負担感、安全面に十分配慮しているほか、入浴を拒否される方へは、改めて促したり、外部の温泉を利用するなど、対応の工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴等をアセスメントにより把握しており、得意分野で個々に力を発揮できるよう、食事に関する一連の動作や洗濯物の手伝い、趣味を生かした書き物、レクリエーションなど、経験や力量に沿って発揮出来る場面を設けている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の意向を考慮しながら、季節を感じられるよう外出支援を行っているほか、散歩や墓参り、温泉など日常的に外出する機会を設けている。外出の際は、利用者のその日の心身の変化に対応した支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の内容と弊害について十分理解し、拘束のない日々のケアに取り組んでいる。医療処置等による、やむを得ず身体拘束を行う場合の個別記録等は整備されており、家族への説明や同意を得る体制も整っている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠していない。また、居室等は常時施錠せず、開放的である。また、職員は利用者の外出傾向を察知できるように常に見守りを行っており、察知した際は付き添っている。やむを得ず施錠する際は、家族の同意を得る体制が整っているほか、無断外出時に備え、付近の中学校や地域から協力や理解を得られるよう働きかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の昼夜を想定した訓練を行っており、地域や家族の協力を運営推進会議を通じて働きかけている。また、地域消防団関係者へも協力を働きかけ、協力体制の強化に努めている。災害時に備え飲料水や食料を備蓄している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスに配慮されており、利用者の一日の総摂取カロリーや水分量を概ね把握し、記録している。また、利用者の栄養摂取状況等による指導や助言を得られる体制も整っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルがあり、行政等より情報収集を行い、必要に応じて見直しを行っている。また、ミーティング時にマニュアルに基づいた情報の共有を図っているほか、家族等の協力を得て予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は落ち着いた雰囲気での調度品が多く、心地よく過ごせる空間となっている。また、職員の立てる物音やテレビの音量、室内の明るさも適切で、花や手作りのカレンダーを飾り季節を感じることができるよう工夫されている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から居室への馴染みの物の持ち込みを働きかけ、写真や書棚、テレビ等を持ちこんでいる。持ち込みが少ない場合は、職員と一緒に、一人ひとりが居心地良く過ごせる居室作りを行っている。		

※ は、重点項目。